

富山県若年性認知症 相談・支援センター

社会福祉法人 富山県社会福祉協議会
富山県若年性認知症相談・支援センター
〒930-0094 富山市安住町5-21サンシップとやま5階
富山県難病相談・支援センター内
TEL 076-432-7501 FAX 076-432-6578

活動だより

働き盛りの世代に発症する若年性認知症は、本人だけでなく家族の生活に与える影響はとて大きいいため、「もしかしたら」と気付いたら、早めの受診が大切です。

当センターでは受診の相談、診断後は就労を続けるための支援、利用できる制度の紹介・手続き支援等を行っており、ご本人やご家族の気持ちに寄り添いながらサポートしています。センター開設から7年が経過し支援のための関係機関との連携は、ますます広がってきています。今後も皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

令和4年度 活動実績

個別相談・支援

相談実数は、42人で、50歳代が半数近くを占めています。相談者は、本人が約2割、家族が約4割でした。病名では「アルツハイマー型認知症」が約半数、「認知症を疑っての相談」は約2割でした。相談内容は、「症状や生活上の困難」や「就労」が多くなっています。相談方法は「電話」が約8割を占めています。

若年性認知症支援コーディネーターが相談に応じています。

電話相談・面接相談

月～金曜日 9:00～16:30
土曜日 13:00～16:00
TEL 076-432-7501

◆相談者数

実数	42人
延数	283人

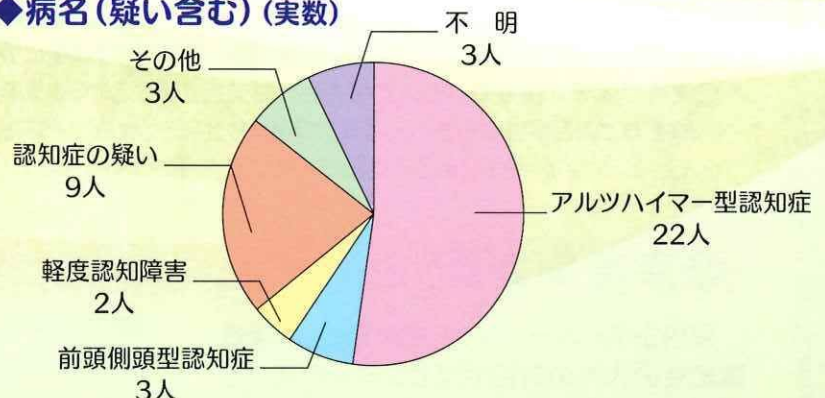
◆相談対象者の年代(実数)

39歳以下	4人
40歳代	3人
50歳代	19人
60～64歳	10人
65～69歳	4人
70歳以上	1人
不明	1人

◆相談者の内訳(延数)

本人	52人
家族	125人
その他	106人

◆病名(疑い含む)(実数)



◆相談支援内容(延数)



ご本人・家族の交流会

●土曜サロン

奇数月の土曜日午後に年6回開催し、延57人(32組)が参加されました。

本人交流会は理学療法士等パートナーの指導で作品作りや体操などをおして楽しい時間を過ごしました。



作品の一例(マスク、うちわ)

家族交流会は日頃の悩みを相談したり情報交換したり気軽な交流の場です。認知症看護認定看護師からのアドバイスを受けました。

- 受診に同行し日常の様子を医師に伝えることが大事だ。
- いつまで介護できるか不安だ。
- 福祉作業所からデイサービスに移行する時期になっているが、本人の拒否があり困っている。
- うがいができない場合の口腔ケアの工夫 等

●おしゃべりカフェ

ご家族だけでゆっくり話ができるよう、偶数月に年5回開催し、延9人が参加されました。

ピアサポート

病気や介護について、経験者と悩みや思いを共有する出会いの機会を提供しています。

支援者のための研修会及びネットワーク会議

研修会をとおして関係機関と連携を図っています。

開催日	内 容 (オンライン開催)	参加者
R4年 10月5日	○活動報告「関係機関との連携で支援する」 富山県若年性認知症相談・支援センター ○講義「若年性認知症の人と家族の支援」 講師 梶山女学園大学 人間関係学部心理学科 准教授 鈴木 亮子 氏	94名

- 活動報告では、①就労中の本人の支援 ②一般就労から福祉就労へ移行した本人・家族の支援 ③就労を強く希望する家族の支援 ④進行に伴うサービス継続利用に関する支援の4事例について、関係機関との連携を中心に報告しました。
- 講義では、「介護者の心理的支援や生活も支援することで、家族及び本人のQOL向上に繋がることを学んだ。」「先生の体験をもとに当事者はもちろん家族の支援が大切だと改めて感じた。」「介護者だけでなく、そこに一緒に生活する子供達にも目を向ける必要があると学んだ。」という感想が多数ありました。

啓発普及事業

県内企業へリーフレットを配布し、若年性認知症の人への対応や当センターの周知を行っています。

診断直後からの相談につながるよう病院の外来等に掲示していただくポスターを作成し、周知を行っています。

下記リーフレットをご希望の方は、当センターへお問い合わせください。
またホームページからダウンロードできます。



センター
リーフレット



企業等・職場向け
リーフレット



若年性認知症
ハンドブック



若年性認知症支援コーディネーターのつぶやき

若年性認知症と診断され、当センターに相談される方はほんの一握りです。当事者の方やご家族は、大きな不安や悩みを抱えながら生活されていることと思います。そのため、少しでも多くの方に利用していただけるよう新たにポスターなどを作成しました。不安や悩みを軽減したり、少しでもよりよい生活が送れるよう、ご本人やご家族とともに一緒に考えていけたらと思っています。

